

【奨 励 賞】



氏 名 員 暁洒
(イン ギョウサイ)
国・地域 中国 
在日期間 4ヶ月
学 校 鹿児島大学

タイトル : 勇気という鍵

皆さん、こんにちは。員暁洒と申します。今回のテーマは勇気という鍵です。よろしくをお願いします。

勇気は人生の中の最も鮮やかな色彩です。勇気をたたえる言葉もたくさんあります。さて、勇気と言えば、皆さんは何を思い出しますか。私の頭にまず浮んだのは、かつて自分が勇気を出した自慢できること、そして、勇気が足りなくて悔しくてたまらなかったことです。

昨年の9月末に、私は勇気をもって日本に来ました。今回のスピーチコンテストについての情報を得て、私は参加するかどうか迷いました。実は私は内気なので、スピーチコンテストどころか、授業で手を挙げることもさえも緊張して胸がドキドキします。しかし、一度も参加したことがないからこそ、従来の自分を超越するために参加したいと思いました。でも、人前で恥をかくのは嫌です。さんざん葛藤した結果、私は今、勇気を出してここに立っています。皆さんと私の話を共有することにしました。

私は高校の三年間、憧れの大学に入るために、努力を重ねていました。それなのに、大学試験期間中、高熱が何日も続いて、頭がぼうっとして集中できず、その大学には落ちてしまいました。皆さん、わかってもらえるでしょうか？当時若かった私が、どんなに苦しくて辛かったか。周りの人は「女の子はストレスに弱いから、来年もだめでしょう。」とか、「今の大学もそんなに悪くないじゃない。」といろいろと言いました。そして、結局、私は理想の大学に入るためにもう一度戦う勇気がありませんでした。現実には妥協して、ある大学に入学し、平凡で何の変哲もない毎日を繰り返していました。

ある日、偶然、大学で行なわれた修士発表会に参加しました。この会では、大学院試験に合格した先輩達が、自分がどうやってそれぞれの院に受かったかという経験を後輩に話してくれました。その中のある先輩が入学した大学は、私が失敗して入れなかった大学でした。みなさん、想像してみてください。その会場に座った私は表彰台に立ち、ぴかぴか眩しいその先輩をぼうっと見ることもできませんでした。羨ましくてしかたありませんでした。しかし、その瞬間、その憧れの大学に関する全ての記憶が一瞬にし

て蘇ってきました。なんだ。私はこの学校を忘れたのではなく、心の底に深くしまっていたのか。勇気、それは時にはほんの一瞬ちらっと心に浮かぶだけのものですが、時には一生ずっと心に留まる執念です。

それからというもの、私は朝早くから、夜遅くまで寝る間も惜しんで勉強に励みました。わずかな時間でもおろそかにせず、一日も休まず、あのキラキラ輝いている大学に入るため、一生懸命準備しました。そしてついに、私はその大学の院に合格することができ、今もその大学院で勉強をしています。勇気があったからこそ、大学入試に落ちるという経験をしてはなお、理想の大学を追い続けることができました。そしてその結果、もう一度夢を追う権利と機会をもらったのです。

ここで皆さんに、アメリカの精神科医であり、作家であったM・スコット・ペックさんの言葉を紹介したいと思います。「勇気とは恐怖を感じないことではない、恐怖を感じながら行動できることである」。私も大学院への進学や留学、また今回のスピーチコンテストをきっかけとして、もっと自分を変えて、今の自分を越えられるようになりたい、積極的にチャレンジする人になりたいです。私は勇気こそ真正面から困難と挑戦に立ち向かうためのゴールデンキーだと思います。勇気を持っているから、私には畏れることがありません。そしてあなたも、勇気を持てば、きっと人生の波を上手に乗りこなせるでしょう。

ご清聴ありがとうございました。